

第六次前橋市総合計画改訂版 ガイドブック

Guidance for all the citizens about
the grand master plan revised edition



前橋市
Maebashi City

未来へ向けたキーワード

新しい価値の創造へ。

前橋市長が語る「みらいのカタチ」

総合計画改訂版 — 前橋のこれからのまちづくり —

未来を形にする5つのプロジェクト

前橋市が目指す将来の都市の姿。

それは、誰もが安全に安心して暮らしていて、前橋ならではの「良さ」をもっと磨いて、みんなの力で「新しい前橋らしさ」を生み出す、そんなまちの姿。

人もまちも生き生きと輝くまちへ。

これを実現するために必要な取り組みを整理したのが、前橋市の最上位計画「**第六次前橋市総合計画改訂版**」です。

この冊子は、改訂版の概要をわかりやすく簡潔に再編集したものです。

前橋のこれからのまちづくりを色々な人に知ってほしい。

一人でも多くの人に、明日の前橋への思いを馳せてもらえたら。

そんな願いを込めて作成しました。

前橋の「みらいのカタチ」。みんなで探してみませんか。

前橋の「新しい価値」の創造へ。

市長が語る「みらいのカタチ」

——いよいよ総合計画改訂版がスタートしました。山本市長が描く「これからの前橋」はどのような姿なのでしょう。市長 一言で表すと、市民と行政がそれぞれの知恵と工夫で社会を支えあい、誇りを持って生きている。これが、私が目指す「新生前橋」の姿です。

——どのように実現していくお考えですか。

市長 前橋には全国に誇れる宝がたくさんあります。宣伝が足りないだけです。この眠った宝を磨き、組み合わせて「新しい価値」を作りあげることが、私の目指す「これからの前橋」へとつながっていくと考えています。平野部から赤城の山頂にいたるまで、また、前橋が中心地だったといわれる古墳の時代から明治の近代化まで、地理的にも、歴史的にも、前橋は固有の宝でいっぱいです。これらに再度光を当てる、つまり、新しい価値を生み出すことは、歴史の誇りを取り戻すことでもあるのです。

——「新しい価値」と聞いてもピンときませんが、例えばどのようなことを指すのでしょうか。

市長 例えば、古いレンガ倉庫で、高校生の演劇やミュージカルが行われる。おばあちゃんのお漬物が、科学者の知恵によって健康食品になる。ゴミから発電したり、空き店舗を学生寮にしたり、今ここにある「何気ないもの」に知恵が加わって「新しい価値」ができます。

——従来どおりではなく、何か新しい要素を付け加えることが大切だということですね。

市長 そうですね。ですがそれだけではなく、暮らしの現実にあわせて見方を変えることも大切です。慣れた景色ばかり見ていたら、市民の暮らしの現実は見えませんか。例えば公共交通。バスといえば、決められた路線を定時に走ることが当たり前で、昔はそれが一番便利で合理的だったわけです。ところが、足が痛くてバス停まで歩けないお年寄りや障害者の移動の足とするには不十分で、何が必要かを考えるべきです。つまり、今あるものを上手く活かす、工夫するということも、新しい価値を生み出す大切な要素になるんです。

——そうした考え方に基づく取り組みが、この改訂版に盛り込まれているということでしょうか。

市長 そのとおりです。しかも、改訂版の作成に際しては、地域で活躍されている方をはじめ、学生さんや主婦の方、大学の先生など、実に多くの皆さんに関わっていただきました。ですからこの改訂版には、関わっていただいた皆さんのアイデアや思いもたくさん込められています。



今や前橋の顔となった「ころとん」。民間事業者を中心に構成する「ようこそまえばしを進める会」が取り組む「TONTONのまち前橋」から生まれたキャラクターだ。こうした動きも、前橋に「新しい価値」を根付かせる一つのきっかけになる。

ころとん

——最後に、これからの意気込みをお聞かせください。

市長 ご案内のとおり、前橋は人口減少・超高齢化の時代を迎えます。市の財政も厳しくなる一方です。今までの市役所の常識は通用しません。無駄遣いをやめてやり繰りしながら、市の成長戦略に投資していくことで、長生きすることが幸せになり、若者が戻ってきて、子どもを育てやすい前橋になるよう、挑戦したいと思っています。

総合計画は、前橋市が進むべき方向性を示す道標であるとともに、皆さんが思い描く「未来の形」を実現するための設計図でもあります。一人でも多くの方に思いを共有していただいて、この激動の時代を共に乗り越えていきましょう。

前橋市長
山本 龍

■前橋固有の特性を活かします

→無い物ねだりはしません

■市民の自立を促します

→まちづくりを共に進めましょう

■市役所の改革を強力に進めます

→無駄を減らして皆さんに還元します



初代前橋市長・下村善太郎翁の銅像。明治二十五年の市制施行から連続と続く百二十年の歴史と伝統を現代に活かすことが、前橋の未来の形へとつながる。

About the city planning of Maebashi

総合計画改訂版－前橋のこれからのまちづくり－

前橋のこれからのまちづくりの指針となる第六次前橋市総合計画改訂版。
前橋市が進むべき方向は一体どこなのか。そしてその理由は何か。
将来都市像の実現に向けた前橋市の考え方を解説する。

■人口が減少する時代に突入した現在、これからの都市政策については、それまでの「拡大」を前提とした考え方から、「質の向上」や「持続性」、「安全・安心」の視点を大切にしていきます。

■長らく続く厳しい経済情勢や、幾度も見舞われた大規模災害などを教訓として、「命を守る」、「今あるものを大切にする」ことをこれからの行財政運営の大きな柱にします。

前橋市には、さまざまな「宝」が多く存在します。その特徴的なものが、「充実した医療環境」、「豊かな自然」、「災害に強い立地」、「伝統ある歴史と文化」、「全国有数の農業生産力」です（下記図表参照）。これらが前橋を象徴する固有の特性であることは、ここ前橋が、人々の生命や暮らしを支えるに

適した土地であり、文化的価値を熟成するのにふさわしい都市であることの証しであると言えます。

つまり、前橋市はすでに「成熟社会」を構築する十分な資質を有していて、今ある固有の特性を大切にすることが成熟社会を目指すうえで一番の近道なのです。

さらに、これらの地域特性を上手く活用することで、前橋の新しい魅力や個性を生み出したり、暮らしの質の向上につながることも期待されます。

そこで、前橋固有の地域特性を維持し、誰もが安全に安心して暮らせる環境を持続するとともに、地域特性と市民や地域の力を「都市の成長を支える栄養」として活用し、新たな前橋らしさ＝前橋の新しい価値を創造することを将来の目標としました。

このような取り組みを通じて、人もまちも生き生きと輝く都市の実現を目指す、それが第六次前橋市総合計画改訂版の将来都市像「生命都市いきいき前橋」の基本的な考え方です。

前橋が誇る地域特性

① 充実した医療環境



② 豊かな自然



③ 全国有数の農業生産力



④ 伝統ある歴史と文化



⑤ 災害に強い立地

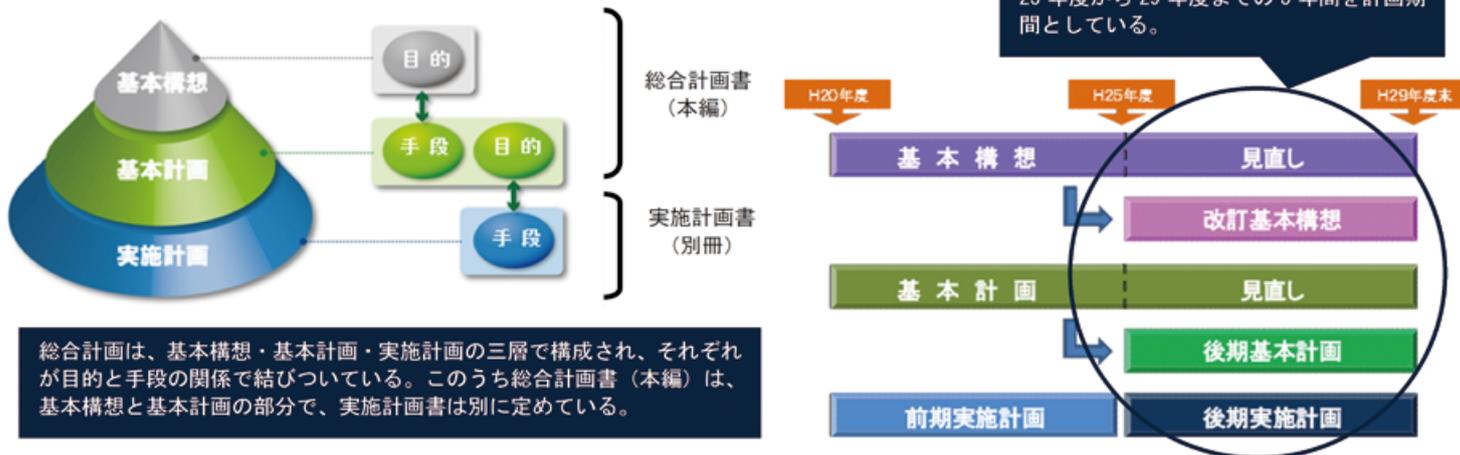


- ①重粒子線がん治療施設（群馬大学重粒子線医学研究センター）
- ②前橋の市街地と赤城山
- ③前橋産農畜産物を使用した食のブランド「赤城の恵」
- ④前橋を代表する詩人・萩原朔太郎
- ⑤新たな主要幹線として期待される上武国道

データで見る前橋の特徴

医療健康	<ul style="list-style-type: none"> ■10万人当たり診療所数（H23）約110箇所（5位/41中核市） ■10万人当たり医師数（H22）約430人（2位/40中核市） ■重粒子線がん治療施設（群馬大学医学部附属病院）
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■赤城山（日本百名山） ■利根川・広瀬川
農業生産	<ul style="list-style-type: none"> ■豚産出額 約90億円（全国5位） ■キュウリ出荷額 約1万トン（全国6位）
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ■萩原朔太郎、伊藤信吉、高橋元吉、平井晩村ほか詩人多数 ■天神山古墳、山王廃寺跡等、多数の史跡
安全安心	<ul style="list-style-type: none"> ■震度6以上に見舞われる確率 0.1～3%（確率論的振動予測地図）

第六次前橋市総合計画改訂版の構成と計画期間



総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画の三層で構成され、それぞれが目的と手段の関係で結びついている。このうち総合計画書（本編）は、基本構想と基本計画の部分で、実施計画書は別に定めている。

総合計画改訂版とは

総合計画改訂版は、平成20年度から29年度を計画期間とする「第六次前橋市総合計画」を中間年度で見直し、平成25年度から29年度までの5ヵ年計画として再度策定したものです。改訂基本構想・後期基本計画・後期実施計画の三層で構成し、前橋市が描く将来イメージから具体的な事業まで体系的に整理しています（上記図表参照）。このうち、将来都市像を具現化するための重点的な取り組みや、今後取り組むべき政策の方針、施策の体系などの具体的な内容については、後期基本計画（下記図表参照）に位置づけています。

なお、後期基本計画に関連する具体的な事業を網羅した「後期実施計画」

については、別に定めています。

前橋市は、わが国の行政制度では「市町村」に分類され、住民に最も身近であることから「基礎的自治体」と呼ばれています。基礎的自治体では、道路整備などの基盤整備から、環境保全、教育・福祉施策、産業振興、地域活動支援まで、住民生活の基礎となる幅広い行政サービスの実施が義務付けられており、総合計画では、これらの取り組みをわかりやすく体系的に示す必要があります。

このため改訂版では、幅広い行政サービスの中でも、将来都市像を実現するために特に必要な取り組みを抽出し、後期基本計画第3編「分野別計画」として位置づけています。

一方、総合計画において、基礎的自治体を実施すべき行政サービスを網羅しただけでは、他の都市と大差のない計画となってしまいますので、将来都市像を具現化するための「前橋ならではの」取り組みをしっかりと位置づけ、「前橋市の長期計画」であることを示していくことも重要です。それを特徴的に集約したのが、後期基本計画第2編「生命都市推進プロジェクト」です。

5年間の重点施策

生命都市推進プロジェクトは、この5年間で特に力を入れて進める重点施策のことで、**前橋固有の地域特性や市民の力、地域の力を都市の成長を支える栄養として活用し、新たな前橋らしさ＝前橋の新しい価値を創出することを狙い**としています。

具体的には、まちづくりの原動力を高めるためのプロジェクトと、地域特性を活用する4つのプロジェクトで構成し、それぞれ3つのプログラムを実行することとしています。

プロジェクトは分野別計画と異なり、各行政部署がそれぞれ取り組むものではありません。いわゆる従来までの「縦割り行政」では推進できない仕組みになっています。それぞれのテーマで、関係する行政部署はもとより、市民や地域の皆さんをはじめ、時には関係団体や民間事業者との連携を図りながら、分野横断的に展開していく考えです。

後期基本計画の構成

第1編 将来都市像の実現に向けて

- 生命都市の基本的な考え方
- 都市のグランドデザイン

将来都市像「生命都市いきいき前橋」の考え方と、都市デザインの総合的な方向性を詳しく解説。

第2編 生命都市推進プロジェクト

- 県都まえばし育成プロジェクト
- ふれあいコミュニティ創造プロジェクト
- クリーンシティ実現プロジェクト
- まえばし産業成長プロジェクト
- まえばしクオリティ向上プロジェクト

将来都市像の具現化に向けて重点的に取り組むべき施策。市が実施するさまざまな事業の中でも優先度の高い取り組みとして位置づけている。総合計画改訂版の特色はここに凝縮されている。

第3編 分野別計画

- 快適で暮らしやすいまちづくり
- 恵み豊かな自然と共生するまちづくり
- 個々が光り輝くまちづくり
- 地域資源を活かした活力あるまちづくり
- 豊かな心を育むまちづくり
- 市民協働のまちづくり

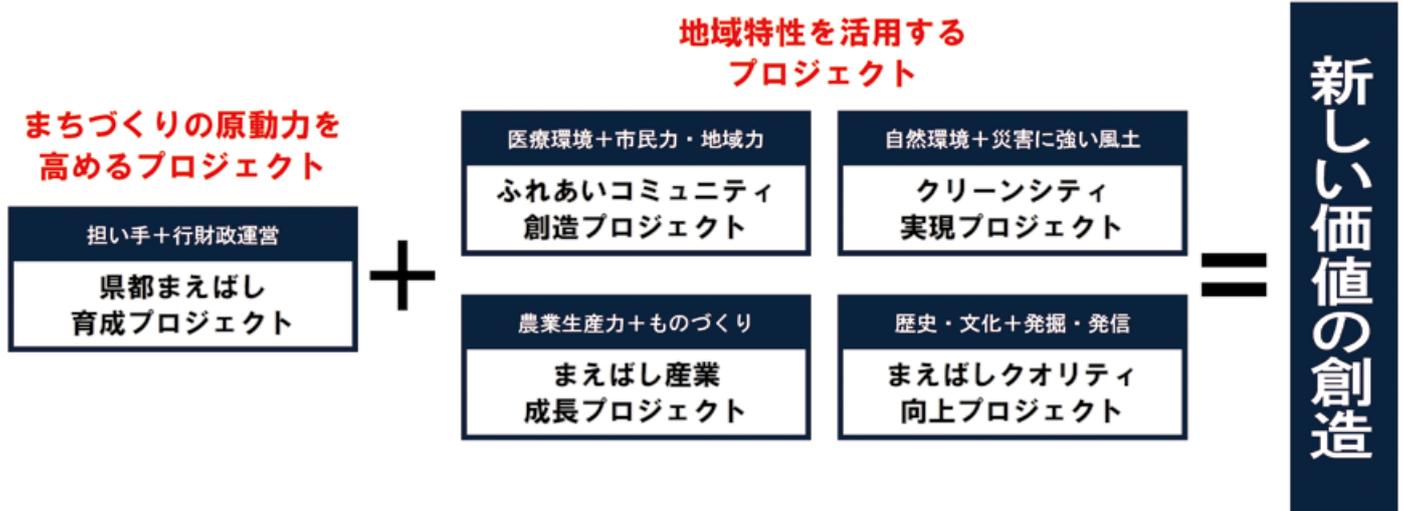
将来都市像を実現するために必要とされる政策や、基礎的自治体として取り組むべき施策を網羅。基本構想に定める「施策の大綱」（政策・施策の基本的な枠組み）に基づき、政策分野を6つに分け、施策や事業を体系的に整理している。

Five projects for making the future

未来を形にする 5つのプロジェクト。

今後5年間で特に力を入れて進める重点施策「生命都市推進プロジェクト」。
このプロジェクトが、新しい価値を創造するメインエンジンとなる。

生命都市推進プロジェクトの構成



県都前橋の成長の原動力を強化する

県都まえばし育成プロジェクト

前橋で育った子どもに前橋で活躍してほしい

県都前橋を背負って立つ次代の担い手を育成するため、子どもたちが小さな頃から前橋固有の地域特性に関わる機会を充実し、郷土への愛着心を育みます。また、前橋ゆかりの著名人との交流や、多様な体験活動を充実し、将来に対する夢や希望を育み、前橋で育った子どもが前橋で活躍する環境づくりを進めます。



スポーツ選手や著名人とのふれあいは、子どもたちの夢や希望を育む



地域の伝統行事への参加を通じて前橋の良さを学ぶ

子育ては前橋でいかがですか



子育て世代を多く呼び込めるまちへ

教育の質の向上は都市の魅力を高める



都市の活力を持続させるため、人口減少対策としての定住促進や子育て世代への支援、転入促進を図るとともに、きめ細かな指導体制をはじめとする教育環境の充実に取り組みます。

スマート行政&スマートシティの実現へ



高度成長期に建設された公共施設の多くが耐用年数を経過する

行政手続きから買い物まで、ICカード一つで決済できる仕組みの構築へ



業務数の圧縮や公共施設の効率化・最適化（ファシリティ・マネジメント）を進め、行政水準の確保に努めます。また、ICTを活用した業務改革と市民生活の利便性の向上を図ります。

互いに支えあい安心して暮らせるまちへ

ふれあいコミュニティ創造プロジェクト

気軽にボランティアできる環境づくり

誰もが安心して暮らせるまちの実現に向け、元気な高齢者や女性の社会参加を促進し、地域住民による主体的な支えあい活動の充実を図ります。また、一人でも多くの人々が地域活動やボランティアに参加しやすい環境を整えるため、ポイント制の導入やコミュニティビジネスの支援などの仕組みづくりに取り組みます。



多世代交流は将来の支えあいの基礎



誰もが気軽に「支えあい」に関わることができれば、地域住民による新しい福祉サービスが誕生する可能性がある

わがまちのことは自分たちで考える



主体的な地域づくりに向けた地域住民による協議

地域や市民団体と行政による協働型事業は、新しい公共への第一歩



市民や地域、NPOなどが公的活動に参加する「新しい公共」の創出に向け、市民・地域・行政の役割分担や協働のあり方を検証します。また、協働型事業の創出・拡大を図ります。

受診しやすく、より充実した医療環境へ



充実した医療環境を維持するための努力も必要



医療・保健・福祉機能の協力・連携が進めば、安心感と利便性はさらに高まる

医療・保健・福祉機能の効果的な連携を図るとともに、次代の医療・福祉を担う子どもたちの夢や憧れを育み、前橋固有の地域特性である医療環境のさらなる向上を目指します。

恵まれた自然環境を次代に引き継ぐために

クリーンシティ実現プロジェクト

エネルギー創造都市へ加速する

日照時間の長さや豊富な河川水量、災害に強い立地を最大限に活用し、環境への負荷の少ないクリーンエネルギーの導入促進に取り組みます。また、エネルギー自給率の向上や資源の有効活用に向けて、新たな環境技術の導入促進と、それを活かしたまちづくりの研究を進め、資源やエネルギーの高効率利用と地域内循環を目指します。



小水力発電や電気自動車（EV）など、環境負荷の少ない技術の普及が必要



ごみを出さない～ごみゼロへの挑戦～



紙ごみの減量化は喫緊の課題

ごみ排出量の大幅削減に向けて、まずは市役所から排出されるごみの徹底的な減量に取り組むとともに、全市民参加型のごみ減量化施策の具体化を進めます。

地道な啓発活動はごみゼロへの近道



前橋型の“エコ・ライフ”を実践しよう

自転車のある暮らしは環境にも健康にもやさしい



自然環境や農村が身近な場所にある強みを活かす

自然にやさしい生活様式の確立に向けて、身近なところから省エネやリサイクルの仕掛けづくりを進めるとともに、自転車利用や緑化活動などの拡大・参加促進に取り組みます。

産業の新しい価値を創造する

まえばし産業成長プロジェクト

農工商連携と六次産業化で農業の価値を高めたい

生産者・加工業者・販売業者による農工商連携と、農業の六次産業化※を推進します。また、農畜産物・加工品のブランド化と、産学官の連携による新たなブランド品開発を進め、「前橋産」の商品価値・競争力の強化を図るとともに、大消費地への売り込みや各種メディアの活用によるPR活動等を通じ、多様な販売チャネルを開拓し、販路拡大を図ります。

※六次産業化：第一次産業（農業）と第二次産業（製造・加工）と第三次産業（物流・販売）を融合させた産業構造や経営形態のことを指す。

農工商連携による商品開発やブランド化が期待される



生産と加工、販売が結びつくことで、農業に新しい価値が生まれる

「農」に触れて、もっと身近な存在へ



市民農園や農業体験を通じて幼少の頃から農に触れる

企業の農業への参画を促し、農業を働く場の選択肢の一つに



農業体験の充実や遊休農地・市民農園の活用などを通じて、多くの人の農業への関心を高めるとともに、多様な主体が農業に参画する機会の拡充を図ります。

前橋の強みを活かした産業基盤を築く



前橋の強みをさらに伸ばせる産業を集積するのが理想的



経済の要である中小企業の活力が成長の鍵を握る

本市の地域特性を活かした産業集積や、「ものづくり」の強みを活かした産学官連携を促進し、都市の成長をけん引する産業基盤の強化を推進します。

歴史をひも解き未来への物語を紡ぐ

まえばしクオリティ向上プロジェクト

民間活力との連携で前橋のブランド力を高める

地域特性を活用するさまざまな取り組みから生み出される新しい価値・新たな都市の魅力を「前橋らしさ」として磨き上げ、都市のイメージアップやブランド力向上に活用していきます。活用にあたっては、民間の動きとのマッチングを図りながら、より戦略的なプロモーションを展開し、郷土への愛着心の向上と「前橋ファン」の獲得を目指します。



前橋の食のイベントとして定着したT-1グランプリ。民間との連携による効果的のプロモーション事例の一つだ



みんなで中心市街地に出かけよう



風のまち音楽祭は街なかを回遊しながら楽しめる



アーツ前橋と連携した文化イベントも期待される

街なか全体を舞台としたイベントの開催や交流の場を提供し、中心市街地に文化・交流機能を創出するとともに、街なかを回遊したくなる仕組み・仕掛けづくりに取り組みます。

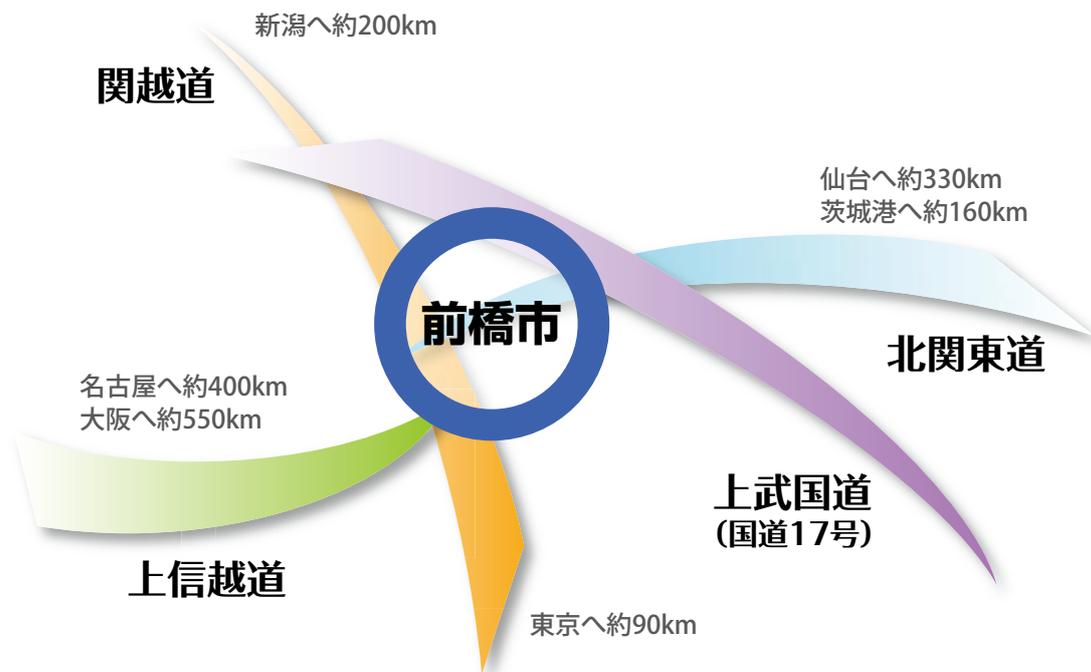
磨けば光る前橋の宝

上泉伊勢守や国定忠治は全国的な知名度も高い



前橋を象徴する場所や建物は意外と身近な場所にあるもの

歴史や文化に根ざした学びや体験の場を提供する中で、多くの人々が交流できる仕組みづくりと、潜在的に魅力のある地域資源の新たな活用策を検討・展開します。



前橋市の概要 About Maebashi

市章	○ (輪貫)
沿革	明治 25 年 市制施行 (関東で 4 番目) 昭和 56 年 市役所新庁舎落成 昭和 57 年 市民文化会館落成 平成 2 年 グリーンドーム前橋完成 平成 4 年 市制施行 100 周年 平成 5 年 前橋文学館開館 平成 14 年 市制施行 110 周年 平成 16 年 大胡町、宮城村、粕川村と合併 平成 19 年 前橋プラザ元気 21 オープン 平成 21 年 富士見村と合併 平成 24 年 市制施行 120 周年
地勢	面積 311.64k m ² 、東京から北西約 100km 圏内
気象	平均気温 14.9℃ 日照時間 2,227.4 時間
人口	341,715 人 (2013 年 2 月末現在)
財政	平成 23 年度一般会計決算額 歳入 1,404 億 7,434 万円 歳出 1,369 億 7,713 万円 平成 23 年度特別会計決算額 (7 会計) 歳入 819 億 1,455 万円 歳出 811 億 4,512 万円 平成 23 年度企業会計決算額 (水道・下水道) 収入 182 億 2,574 万円 支出 219 億 6,230 万円
産業	第 1 次産業就業者 7,158 人 (4.4%) 第 2 次産業就業者 37,109 人 (22.6%) 第 3 次産業就業者 110,963 人 (67.6%)
交通	JR 東日本 両毛線、上越線 上毛電気鉄道 関越自動車道、北関東自動車道

平成 25 年 3 月 前橋市政策推進課

〒371-8601 前橋市大手町二丁目 12 番 1 号

TEL : 027-898-6513 E-Mail : seisaku@city.maebashi.gunma.jp